

サハリン事務所現地レポート

2018年3月

(件名) 地域の魅力海外発信支援事業への出展 (於: モスクワ市)

報告者: 主査 阿部 大祐

3月24日(土)から25日(日)にかけて、モスクワ市の大型ショッピング・センターにおいて、外務省・日本大使館主催による日本文化発信イベント「地域の魅力海外発信支援事業」が開催され、北海道もこの会場にブースを設けて、道内の賛同頂いた協力企業から提供あった食品の試飲・試食、映像やパンフ配布による観光情報の発信などを行った。また、会場の特設ステージでは風船アートによる北海道のPRを実施した。

会場は二日間とも大盛況であり、来訪したモスクワ市民は、徳島県からの阿波踊りや、茶道・華道の文化体験、日本食のワークショップで日本をまるごと堪能していた。ブースに立ち、市民に北海道のことを紹介したところでは、やはりモスクワは地理的に離れているため、サハリンや極東のように北海道のことを良く知っている人は少なく感じられた。この点では、日本文化を発信する場で北海道をPRできたのは良い機会であった。なお、オープニング・イベントでは、堀井学・外務大臣政務官が来訪し、政府高官による日本の地域の魅力を発信した。北海道の知名度が低い欧露部においては、このように国と一体となって情報発信で

できる機会があれば、道として積極的に加して行くべきだと思います。

北海道には参る。



徳島県の阿波踊り



北海道ブースの様子
(観光情報発信)



ブースでの試食・試飲

(件名) 「アジアの子供たち」代表者ミッションセミナーへの参加について

報告者: 所長 桜井 達美

2019年2月にサハリンでの開催が予定されている「アジアの子供たち第1回冬季大会」に向けて各国のオリンピック委員会やスポーツ関係省の代表者が集う「Chefs de mission seminar」(代表者ミッションセミナーの意。以下、セミナーとする。)が3月21日~23日にかけてユジノサハリンスク市で開催され、本庁から来訪したスポーツ振興課長とともに出席したので報告する。

この「セミナー」はアジアの子供たち組織委員会が主催し、ロシア連邦スポーツ省、同国オリンピック委員会代表者のほか、中央アジアをはじめアジア各地等からの21カ国の代表者が参加した。初日の21日には来年行われる8種目の競技会場や宿泊や練習施設などの視察が行われた。2日目には対象地域や参加選手の年齢などの要件、参加申請などに関する実務的な説明会が行われた。最終日23日には3日間を総括する会議が開かれ、各参加者から施設等への感想など活発な発言がなされた。また、会議に引き続き、大会開会までの時を刻むカウントダウンクロックの除幕式も行われた。

国際スポーツ競技大会「アジアの子供たち」は1996年から4年毎にサハ共和国において夏季大会として開催されてきたが、来年初の冬季大会がサハリン州で開催されることになっている。全体で約2,000人の選手(16歳以下)や役員、コーチ等が参加する見込みであり、北海道からも選手団を派遣する予定となっている。当事務所でも主催者等と連絡調整を図り、北海道選手団の滞在が円滑なものになり、最大限の力を発揮することができるよう、準備を進めていきたい。



競技会場の説明を受ける



実務的説明会の様子



州政府前に設置された
カウントダウンクロック